

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和２年度第１回高松市国際交流推進協議会
開催日時	令和２年６月２９日(月)午前１１時～１２時
開催場所	高松市役所１１階 １１３会議室
議 題	(1) 令和元年度国際交流推進事業実施状況について (2) 令和２年度国際交流推進事業について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席者	<委員>岡田委員、塩田委員、清水委員、太良尾委員、時岡委員、徳田委員、平田委員 <オブザーバー> (公財) 高松市国際交流協会常務理事 <市>創造都市推進局長、文化・観光・スポーツ部長、観光交流課都市交流室(事務局)
傍聴者	２人 (定員 ５名程度)
担当課及び連絡先	観光交流課 都市交流室 (Tel839-2197)

審議経過及び審議結果

議題(1)について

- ・事務局の説明に対し、下記の意見があった。
 - 「やさしい日本語研修会」について、どういった理由で開催することとなったのか。
 - 高松市の在住外国人は令和２年４月現在で５千人を超えている。都市交流室では英語・中国語に専門性を有する会計年度任用職員を配置しているが、英語・中国語以外の言語を使用する住民も多いことから、窓口に来られた外国人住民の方が少しでも困らないようにするため、本市の窓口業務担当職員がやさしい日本語を習得し、少しでも役立ててもらうため令和元年度初めて実施した。
 - 実施した結果はどうだったか。今後どういった形で反映できそうか。
 - 窓口対応する職員約３０人が参加し、２時間の講義を受けた。やさしい日本語についての概要説明を受けるとともにやさしい日本語を使用したポスターを作成しながら、日常使用する日本語との違いを教えていただいた。参加者からも「役立った」、「今後の業務に活かしていきたい」と声をもらっている。
 - 今年度は実施する予定があるのか。
 - 観光案内所の職員を対象に実施する予定だが、新型コロナウイルスの影響により時期等を検討している状況である。
 - 毎年トゥール大学と学生の相互派遣を行っている。令和元年度については３月にトゥールへ学生を派遣し、トゥール市長を表敬訪問した。

議題(2)について

・事務局の説明に対し、下記の意見があった。

- 民間活動の促進として「経済交流の拡大につながるよう国際会議の誘致」とあるが、具体的にどのような取り組みを考えているか。
- 香川県MICE誘致推進協議会に参加し、香川県やコンベンションビューローとともに誘致に取り組んでいる。現在は国際学会の誘致を目指し、国内の大学等から情報収集しながら準備をしているところである。これまでも国際会議開催等の実績もあり、今後も実績を積み上げながら高松の魅力発信ができればと考えている。
- 高松市・南州市友好都市提携30周年記念事業が縮小になるとのことだが、あわせて日中友好協会も設立30周年を迎え、何らかの形で記念事業をやりたいと考えている。ぜひ高松市と連携し、お互いの節目を祝うよう協力していきたい。
- エルバートン市との交流事業だが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により相互派遣は中止となった。来年度からは状況を見て、再開していきたいとエルバートン市とも話している。
- 香川日仏協会としての活動はしばらく中止しており、9月以降に再調整を行う予定である。ウィズコロナ時代として、ネガティブに考えず、感染防止対策をしっかりと実践しながらできることからやっていきたい。ツール市との交流についても、オンラインやメール等を使用しながら、交流が途絶えないようにしていきたい。
- 行政でできない状況のものについては、民間や協会等がバックアップしていればよいと思う。
- 最近ベトナムへの関心がとても高くなってきているように感じる。ベトナム人学生や来日者が増加しており、今後中国の次にベトナムとの交流が活発になるのではないかと思う。企業からも、アジアへ進出するために人材を活用したいが、現在は人の流れが止まっているので、高松市にいる優秀な留学生が求められている状況である。香川大学やアイパル、穴吹学園等と連携し、成果を上げていきたいと考えている。
- 大学にもベトナム人留学生と話がしたい、と企業からベトナムを指名して要請が増えている。高松市在住外国人は5千人を超えているとのことだが、ベトナム人はどれくらいいるのか。
- 4月末時点で1173人である。
- それだけ増えているのであれば、ベトナム対策を検討してみてもよいのではないか。ビジネスはベトナムの方向へ向いているようなので、ぜひ検討してほしい。
- 最近観光地等でも外国人観光客が圧倒的に減ったと感じている。ただ、高松市に住んでいる外国人の方は多くいるので、そういった人たちと文化・歴史交流を密にならない程度にやっていければよいと思う。今までは海外への行き来が主だったかもしれないが、今の状況を踏まえて、高松市にいる人たちで何かできればと思う。
- 外国人住民への支援について、高松市に問い合わせは多く来ているのか。
- 窓口に来庁された場合は、都市交流室に配置している通訳・翻訳員を派遣するようにしている。令和元年度は、英語・中国語、通訳・翻訳合わせて528件の依頼があった。今後もきめ細やかな対応をしていきたいと考えている。
- 現在新型コロナウイルスの影響で対応依頼は増えているのか。

●増えていない。高松市ホームページが多言語対応になっているので、まずはそこで情報収集をしていただいている。特別定額給付金については、新型コロナウイルス対策本部からの依頼で国際交流関係団体に多言語チラシでの周知や外国人住民の支援を依頼している。本部からは、支援者とともに外国人住民の来庁があったと聞いているので、一定の成果はあったと思う。

○高松市は給付が遅れているようだが、外国人住民に優先的に支給したりしているのか。

●していない。

○新型コロナウイルスの影響で、中止になるものや我慢することも多いが、国際交流に関わる立場としては、そういう時だからこそ何ができるのか考え、発信するべきだと思う。2016年にG7香川・高松情報通信大臣会合を開催したと思うが、そういった実績を持つ高松だからこそ、もっと情報発信をしてほしい。今までは電話やメールで済ませていたことも、最近はZOOMやスカイプ等で今まで以上に遠かった人が近く感じるようになった。「コロナだからできない」ではなく、こういう時だからこそ高松市の力を発揮していただければ、私たちも協力していきたいと思う。

○大学でも国際会議をオンラインでと考えている。すでにいろんな大学から案内が来ており、競争になっている状態である。「スマートシティたかまつ」を目指しているのであれば、デジタルやITを活用してこの時期に高松の魅力をいかに発信していけるか考えてほしい。移動を伴う交流は国の危険情報のレベルが下がらなければできないが、下がってから始めるのではなく、それに備えて今から考え始める必要があるのではないかと思う。

※ ○委員 ●事務局